

足羽三山におけるニホンテン *Martes melampus* の初記録

出口 翔大*

First record of the Japanese marten *Martes melampus* by Mt. Hachiman and Mt. Osagoe in Fukui City

Shota DEGUCHI*

(要旨) 2018年3月31日午前9時頃に、福井市の八幡山と兎越山の間を通る道路においてニホンテン *Martes melampus* 雄の轢死体を拾得した。全長670mm, 頭胴長466mm, 尾長204mm, 体重1570gであった。胃からは小型哺乳類, 鳥類, カエル類および昆虫類の一部が検出された。本記録は、足羽三山におけるニホンテンの初記録となった。

キーワード：轢死体, 外部計測値, 胃内容物, 八幡山, 兎越山

ニホンテン *Martes melampus* は食肉目イタチ科テン属に分類される中型の哺乳類で、本州や四国、九州、対馬に自然分布する日本固有種とされている(大河原, 2018)。また、韓国に詳細不明の記録が存在するほか(Kuroda & Mori, 1923)、毛皮養殖や林業被害獣の駆除のために導入された北海道南部および佐渡島には国内外来種として分布する(大河原, 2018)。ニホンテンには本州および四国、九州に生息するホンドテン *M. m. melampus* と対馬のみに生息するツシマテン *M. m. tsuensis* の2亜種が認められており(大河原, 2018)、福井県には亜種ホンドテンがほぼ全域に分布する(福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会編, 1998)。しかし、平野部には出現しないとされており(福井県, 1998)、これまで周辺を福井市街地に囲まれた足羽三山(足羽山、八幡山および兎越山)においてニホンテンの記録はない(長田, 1977; 福井県生活環境部自然保護課, 1982, 福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会編, 1998; 福井市自然史博物館, 2008)。筆者は、2018年3月31日午前9時頃に、八幡山(標高131m)と兎越山(標高82m)の間を通る道路においてニホンテン雄の轢死体を拾得したので報告する。その後、福井市自然史博物館に持ち帰り、得られた外部形態の計測値および胃内容物の一部も併せて報告する。

ニホンテン (亜種ホンドテン)

Martes melampus melampus

福井市月見5丁目4 (36°02'41"N, 136°11'57"E 付近)。

1♂, 31-III-2018。出口翔大採集。

標本収蔵：福井市自然史博物館 (FCMNH-Ma535a：骨格, Ma535b：毛皮, Ma535c：胃内容物)

外部形態

頭部は白色で、首から胴体、尾にかけては明るい黄土色を呈し、四肢の先は黒みがかった(図1)。したがって、本個体は冬毛であった(大河原, 2018)。基本的な各部位の計測値は、全長670 mm, 頭胴長466 mm, 尾長204 mm, 前足長59.0 mm, 後足長82.5 mm, 耳長39.8 mm, 体重1570 gであった。頭骨は破損していた。本個体は陰囊および陰茎骨の確認により、雄と判断された。

ホンドテンは主に冬季の毛色から俗にキテンとステンと呼ばれる2型に分けられるが(大河原, 2018)、本個体の毛色はキテンの特徴に合致した。キテンは北日本から九州にかけてほぼ全国的に分布しているのに対し、首元の黄色部を除いて濃い褐色を呈すステンは四国、紀伊半島、九州において確認されている(細田・大島, 1993; Funakoshi *et al.*, 2017)。そのほか福井県内では、越前町に設置した自動撮影カメラにも2018年6月にキテンの特徴を持つ個体が撮影されている(出口 未発表)。また本個体の頭胴長、尾長、後足長、耳長および体重の値は、岡山県南西部の先行研究による雌の値(頭胴長：348-387 mm, 尾長：152-177 mm, 後足長：74-77 mm, 耳長：35-37 mm, 体重：0.55-0.90 kg, n=3)よりも大きく、雄(頭胴長：372-448 mm, 尾長：198-215 mm, 後足長：80-87 mm, 耳長：39-40 mm, 体重：1.32-1.58 kg, n=3)の範囲内にあった(川口・江木, 2007)。

胃内容物の一部(食性)

本来は餌メニューの評価にはポイント枠法や重量比・容積比など定量的な方法が求められる(小寺2015)。しかし、今回は肉眼でもある程度判別可能な

*福井市自然史博物館 〒918-8006 福井市足羽上町147

*Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui City, Fukui 918-8006, Japan



図1. ニホンテンの轢死体（左）とその拾得現場の様子（右）。
Fig.1. Roadkilled Japanese Marten (left) and peripheral state of it (right).

胃内容物について、定性的な評価を行うだけの簡易的な調査とした (cf. 宮尾・黒瀬 1977). 胃の中からは肉眼で分かる限りで、哺乳類の体毛 (図2a) およびネズミ類または食虫類の未消化の足 (指付近のみ原形を維持しており、属および前後不明: 図2b), 鳥類の黒い羽毛および羽軸 (図2c) カエル類の足 (つま先から大腿部で属および前後不明: 図2d) 膜翅目の昆虫の翅 (図2e) が確認された。

今回胃から確認されたものは、いずれも先行研究からニホンテンの餌メニューとして知られている (中村ほか, 2001; 荒井ほか, 2003; 足立ほか, 2016). テン類は餌を探す際に倒木の下や岩の隙間などを探索すると考えられており (大河原, 2018), 今回胃から検出された膜翅目の昆虫やカエル類も, そうした場所で冬越しや越冬中の個体を捕食した可能性が考えられる. ニホンテンはネズミ類や鳥類のほかに果実なども利用する雑食性であり, 緯度や標高, 季節によって餌メニューを柔軟に変化させることが知られている (Hisano & Deguchi, 2018; Hisano *et al.*, 2018). 本個体の胃内容物の一部からは動物質のみが確認され, 種子など植物質のものは確認されなかった. 冷涼な気候 (高緯度・高標高) に生息するニホンテンは, 植物の餌利用頻度が低いのに対し, 特に哺乳類など動物質の餌利用頻度が高いことが知られている (Hisano *et al.*, 2018). しかし, ニホンテンは冬季も比較的高い頻度でカキ *Diospyros kaki* やヤマブドウ *Vitis coignetiae*, キカラスウリ *Trichosanthes kirilowii* var. *japonica* などの果実を採食する (荒井ほか, 2003; 足立ほか, 2016). 今回, 胃内容物から植物質のものが確認されなかった理由は, 肉眼でも判別可能な胃内容物を対象としたため見落としがあったか, もしくは後述する大雪の影響により (福井県, 2018), 植物質の餌資源が利用しにくい状況にあった可能性が考えられる。

ニホンテンは落葉広葉樹林を選好するが (Hoshino *et al.*, 2014), その中でも攪乱程度の高い林は忌避する (Tsujino & Yumoto, 2014). 足羽三山もコナラなどの生育する落葉広葉樹林が大部分を占めるものの (中村・吉澤 未発表), 山頂や山腹には舗装道路や公園が整備されており, 攪乱の程度は比較的に高い. この攪乱程度の高さも, 当地でニホンテンの記録のなかった一因と考えられる. 今回, 本個体が八幡山一兎越山間で拾得された理由については不明であるが, 2018年2月の記録の大雪 (福井県, 2018) と関連があるかもしれない. 実際, その期間には森林性の大型哺乳類であるカモシカ *Capricornis Crispus* が県内各地の麓の集落周辺で目撃されている (福井新聞, 2018) または足羽三山の落葉広葉樹が生長により大径木化し, 本種にとって好適な環境になりつつある可能性も考えられる. 実際, 半開放性の樹洞に営巣する夏鳥キビタキ *Ficedula narcissina* は, ここ20年で全国的に増加傾向にあり, 薪炭林の管理不足など樹木の生長と関連性が示唆されている (岡久, 2015; 全国鳥類繁殖分布調査事務局, 2016). 今回の記録の理由を明らかにするためにも, 今後, 足羽三山における本種の定着の有無および個体群密度を継続的に調査していくことが望まれる。

謝 辞

福井市自然史博物館骨格標本作製ボランティア「ホネ部」の皆様には, 外部形態の計測および胃内容物の調査, 標本作製に多大なるご協力を得た. 小寺仁美氏には文献を借用いただいた, 神奈川県立命の星地球博物館学芸員の鈴木聡博士ならびにカナダのレイクヘッド大学の久野真純氏には本稿に有益な助言をいただいた. 記して御礼申し上げる。

引用文献

- 足立高行・植原 彰・桑原佳子・高槻成紀, 2016, 山梨県
乙女高原のテンの食性の季節変化. 哺乳類科学, **56**, 17-
25.
- 荒井秋晴・足立高行・桑原佳子・吉田希代子, 2003, 久住
高原におけるテン *Martes melampus* の食性. 哺乳類科学,
43, 19-28.
- 福井県生活環境部自然保護課, 1982, 福井県の鳥獣, 福井県,
240p.
- 福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会編, 1998, 福井の
鳥とけものたち. 福井県, 240p.
- 福井県, 2018, 平成30年2月の大雪について. 福井県
ホームページ, <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/fukuikensaigai/report.html> (参照日2018/1/10)
- 福井新聞, 2018, 大雪の越前市の民家に思わぬ珍客 窓
際にニホンカモシカ. 福井新聞ONLINE, <https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/294868> (参照日2018/1/10)
- 福井市自然史博物館, 2008, 福井市自然史博物館展示ガイ
ド. 福井市自然史博物館, 54p
- Funakoshi, K., Nagasato, A., Takenouchi, S., Kannonji, R.,
Kikusui, M., Uchihara, A., and Tamai, K., 2017, Annual
molting cycle and photoperiods that affect seasonal
coat color changes in the Japanese marten (*Martes
melampus*). *Mammal Study*, **42**, 209-218.
- Hisano, M., and Deguchi, S., 2018, Reviewing frugivory
characteristics of the Japanese marten (*Martes
melampus*). *Zoology and Ecology*, **28**, 10-20.
- Hisano, M., Newman, C., Deguchi, S., and Kaneko, Y., 2018,
Thermal forest zone explains regional variations in
the diet composition of the Japanese marten (*Martes
melampus*). *Mammalian Biology*. <https://doi.org/10.1016/j.mambio.2018.06.001>
- Hoshino, L., Murase, K., Adachi, T., Fujita, T., and Kaneko,
Y., 2014. Broad-leaved forest selection of the Japanese
marten (*Martes melampus*) in central Japan revealed by
camera trapping. *Mammal Study*, **39**, 163-166.
- 細田徹治・大島和男, 1993, ニホンテン *Martes melampus
melampus* Wagner の毛色の変異. 南紀生物, **35**, 19-23.
- 川口 敏・江木寿男, 2007, 岡山県南西部において交通事
故死した哺乳類. 香川生物, (34), 79-82.
- 小寺祐二, 2015, 食性の評価. 關 義和ほか編, 野生動物
管理のためのフィールド調査法 哺乳類の痕跡判定から
データ解析まで. 京都大学学術出版会, 287-309.
- Kuroda, N. and Mori, T., 1923, Two new and rare
mammals from Corea. *Journal of Mammalogy*, **4**, 27-28.
- 宮尾嶽雄・黒瀬広治, 1977, テンの胃内容物の1例. 日本
哺乳類雑記, **4**, 99.
- 中村俊彦・神埼伸夫・丸山直樹, 2001, 東京都日の出町,
あきる野市におけるニホンテンの食性の季節変化. 野生
生物保護, **6**, 15-24.
- 岡久雄二, 2015, 生態図鑑キビタキ. バードリサーチニュ
ース, <http://db3.bird-research.jp/news/201506-no5/> (参
照日2018/1/10)
- 大河原陽子, 2018, ニホンテン 日本固有種. 増田隆一編,
日本の食肉類 生態系の頂点に立つ哺乳類. 東京大学出
版会, 154-174.
- 長田 勝, 1977, 足羽山の自然観察ガイドブック. 福井市
立郷土自然科学博物館 博物同好会会報, (24), 63-77.
- Tsujino, R., and Yumoto, T., 2014, Habitat preferences of
medium/large mammals in human disturbed forests in
Central Japan. *Ecological research*, **29**, 701-710.
- 全国鳥類繁殖分布調査事務局, 2016, 夏鳥の復活? 全
国鳥類繁殖分布調査速報. バードリサーチニュース,
<http://db3.bird-research.jp/news/201608-no1/> (参照日
2018/1/10)

**First record of the Japanese marten *Martes melampus*
in Mt. Hachiman and Mt. Osagoe in Fukui City**
Shota DEGUCHI

Abstract

A road-killed individual of a male Japanese marten
Martes melampus were obtained on a road between Mt.
Hachiman and Mt. Osagoe, Fukui City on March 31st,
2018. Its total length was 670 mm, head and body length
was 466 mm, tail length was 204 mm and body weight
was 1570 g. Fragments of small mammals, birds, frog
and insects were found from its stomach. This is the
first record of the Japanese marten *Martes melampus* in
Mt. Hachiman and Mt. Osagoe in Fukui City.

Key words

External measurements, Mt. Hachiman, Mt. Osagoe.
Roadkill, Stomach contents,

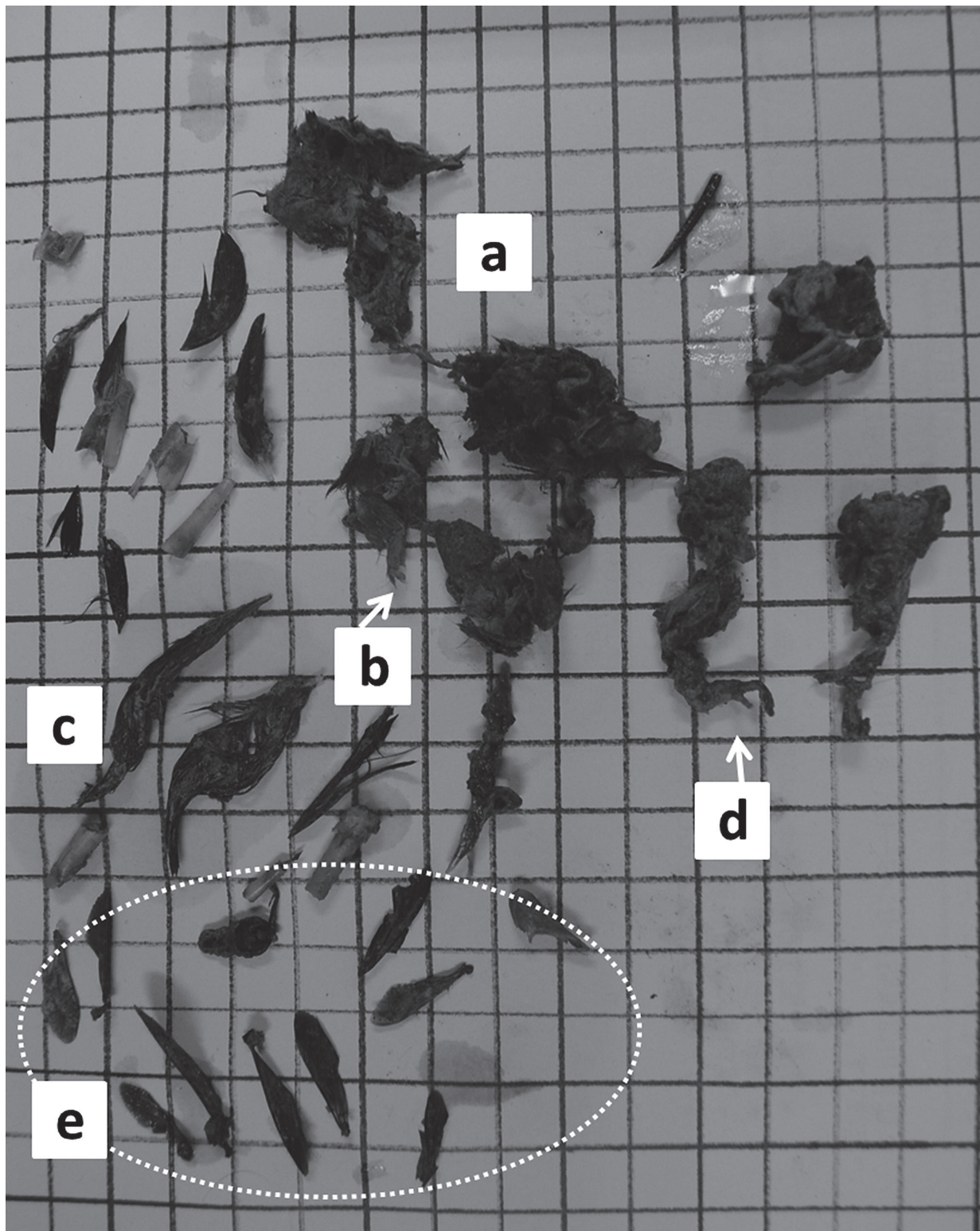


図1. 轢死したニホンテンの胃内容物の一部。1マスは1cm四方。

a) 哺乳類の体毛, b) ネズミ類または食虫類の足, c) 鳥類の羽毛, d) カエル類の足, e) 膜翅目の翅。

Fig.2. A part of stomach contents of the roadkilled Japanese Marten. 1cm squared grids.

a) body hair of mammals, b) foot of Apodemus sp, Microtus sp or Insectivora sp., c) bird feathers, d) foot of frog and e) wing of Hymenoptera spp.